KODAK Color Control Patches ©The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT

ル 3
474
3

京都 四条下 上田仙吉

474

西遊記巻之三

長江の旅宿

肥前国大村より城下とかりそめにさすらへ給うそ也ようの小舟とりて流に浮んで長江とかの所に漕りぬる舟の内よりしらや数に入りぬるとの者国と初めの旅の宿ふ者に入りて宿りて求んとるに自りうるしとかハ舟ばたにもたるべの家あり

そこに門の巻をるを舟へ送り入まいらせ食しくいとせきこみ

殺ようしうとと一夜の宿りあるしの妻ひりくとてうすに

殺しくてを洗ひ笑そぎなとして打くはぎ次の食み

とと取ちくちんてくやそくひとるにまるに当れりてるしてをか

と大なる川と共に落て海つゞきへ落る所の絶景の風景の
おもしろきは六月二十日比の月海より出て波の
きらめく[illegible]を見ながら浜風いと涼しくて
限りなき気色にて入居るに其家の子の十一二才ばかりなるが
他の家の子と頭打をしてあそぶとてその父親又さきの家の
頭を強く打ぬさきの父親又怒りてあそぶ子の親とうちて
後には生がひに親と親とのいさかひと成りて打合しに
あそぶ子の親方強くて打勝て取りぬあがらくあそびてさき
の家の子をさきあそびのものの者と大勢集り来て打擲す
る意趣をはらさんと縁よせる家の庭に込めりぬこるさ

ふたゝびあらそひおこりて其辺の大勢揃ひ来りて
詞戦にはおよばずしてすでにいどみあらそひしがほどなく
田舎人はいさかひ又見物するとて傍に見居りしが次第
に大勢集り来て後の方に数千百人もみちみちたり予も居
たりしに今は危く庭にも居られず南方へのがれしが
に怒りの色して棒庖丁は刀を携へ来り既に打かゝらんと
ねまきのまゝ出んとせしにそば杖に打れ疵付んもおそろしく
其の騒ぎを押しずめんとて家内を知りたる亭主なども
喧嘩をしずめんとまどひけるを[illegible]
あまり居たりしに巻きける者来りて旅の人

不意に事れあひて力をくらべ打ちそこなんむすめにこんあるを
我身なるをいとをぎ彼あれに乗りのひて体をしめつけと縛んぶ
海にいひて義宗形のやうなるとをくらべ寄らるに力を落
て手をうりたり猿形とあらくいとちいさく詰めふ
きかけこう用をくまるくすき小猿をしく吹ぬりてさ
捨てる生をなり山あらし海にめをそりり来とさぐめ
めに寄りと先をるハいかをそれと又風来のあとしら
美に知なくさをて出るまく小袖歌形く出貸く陰にハ形
いさかいを中自ぐ大勢打合ひぬまを門中に屋をを長をを
あをう、とあらべさを美むすぶ〳〵とあ〳〵神を来と

すぶ〳〵用と宿尾とをなぶの見吾をを形多をを神あへ嘉れ
きををして風いとを中〳〵かに抜すま立〳〵をひ〳〵かどをを
きを〳〵とをくて笠〳〵かぶきを刈ぬまを国とあらぶををう
すををに友の夜のを〳〵かに形の中ををを〳〵ひをを山をを
ら引海〳〵をの夜の形中ををなを八苔の鞭引むすびを食をせを
ようぶを立め滅に旅行のを〳〵ひあををあをと又れ〳〵をを

山女

目向を鉄肥領の山中にをを年荒道引ををあを〳〵きをの
をを〳〵をを題身女の形ををを色沖のかに白〳〵玉を髪をを〳〵
て赤裸をを人に紙を人ふあを〳〵猿人を長成人を大西鞭に

あやしき人ふるまひ山の神うとつよみ我後の生るを
とかはるしくれるとせびきまゝみして捨動乃人と
なくて麝香果るゝ仙の生るを考りしとなりよ人の
いひりるを見ハ山女とつかとのあく海ゆ中をまくみるりの
とりつゝ趙高波造あるを蒐乃うとつかとのと作りて獣と
れるるゆ之帝とけく逃ゆるをとウヂとつよまるを考人初りて
きゆ人ちとちけ新宗と潮ハ弓弩して書く機実なり猩猩
うとと皆武ちあく角くれゆるとそ減小逸ゆゆ撞くの怪
歳とのとをとり仙ゝ九ゆ天狗ゆ海を志稀なり藤ゆ赤
児海造ゆハ生人てきかず只ゆ天狗をゝとつよ仙ゆ

造ゆハ人ゆ乃ゆ皆ゆ山ゆハ見ゆ乃ゆ仙なりゆ乃ゆ乃たぐ
ゆとゆゆの風生れよりてゆ有ゆあるゆ

求麻川

肥後国求麻川ハ九州第一の急流なり源を球磨郡椎葉
山ゆ村造より出く只千里ゆり流ゆて球磨ゆ河ゆて
求麻郡ゆ芋ゆと流ゆ求麻の人奇の城下ゆ過ゆて八代に
到り肥後の海に入る毎ゆ帰潮ゆハ相良ゆ河ゆ舟ゆ志流
とゆゆ舟ゆとゆゆ輕ゆ人ゆ乗ゆ市ゆ僕ゆ武人ゆ紅人
三人初合ゆ人奇ゆ見ゆ一日ゆ小荒ゆ八代ゆ十六里
の川ゆ乗ゆ二時ゆ下ゆ着ゆ三月乃ゆ人ゆ春水

法ふ為きに人吉川城下青井の宮に和よう船に乗まへ送別
れ人々おびゝ出立て打集り名残の恨いとゝなう言葉
も森右衛門の三男を相船に乗移て酒肴なと携へ漕て角
ハとゝよう此急流に送りの人こハ霞の中に入て打ち施
とゝろ也尺ゝなひ重ねつゝすりて流くと云
所まぐりの人々ハ法きぬ名残なう涙の情流と言葉
も出所ようとゝ人々ひとゝ〳〵ひとゝ〳〵ひい法くまてゝ人涙う
となるまハ人々と袖をとりて涙ゝて上りの中と云ふ船と
離まて又面影ゝ名残よう乃も名遠雲霧
く法ふまゝやうなう船をいとゝいとゝ細く作りて前尾

に櫓を付ふ先を竿流れ川ゝ下る時あと
ゝりに櫓ゝを船の中ゝ遅き人ふ先き人と櫓と
付ふるとなう常に先の櫓と手ふ動く岸ゝ岩角を避ふ
ゝ方に船を先ゝす又中程に櫓と掛て三人ふう是ハ舟と
前後に右に動ふす為なう此三人の船ちゝ〳〵と漕せ
ゝ舟を操る浪法に逆雲雨よりうて舟の為に流き板と
ふ川先ふ浪の舟中に〳〵ふる中〳〵となう十六宿れ乃ふ
う和ふいゝ〳〵ふく難儀の和あうて浪のふるまゝ山のふく
る岩角浪の名ふ和ひ出ゝ〳〵崎出川ふる和ふ〳〵ハ頭ふ
ふの通沢の時ハ漸〳〵とゝ〳〵和浪ふ又町神ふ八九ふ

りと船を離れて山に登り峻嶮の路を辿り行くこと又船
よりなほ多くなり所々いと珍しく美しく見へ
てこゝ所とも船に乗りたるこゝちする面白き事
筆紙及ぶべきふあり〳〵す海のようなる谷八面山をつゝく崎
て岩を頭のとふ降こ流れ清ふせるうて細く怪巖激〳〵と
て屏風を立てたるやうなる所〳〵絵の勝れたるを
く柳の枝の靡くかとく雨を離れ新緑もる中ふ入るかとをも
は松杉森〳〵たる峯に降ひ或は山峡の散〳〵たる躑躅の咲
拾ひのこる山桜の色う指とあ〳〵つもあるを糸を色脂を
見ぐるすかるゝ〳〵ひあるよ兵を多くあつて事を四方輕

服流通万重山と称せ〳〵の名ある絶景あとれとひあるる後
の高屏ふ高山貴つあ〳〵て仰のあるる疾雷迅雷と及ぶ
波とのふといへ〳〵是山八百千と号ふ入りて一絶句を作る
る。就ひ名う神なく八代の井もとの霊ふ感ふ無中の
ひよ書事今と三百年〳〵日面より赤麻ふ入りしと為る
あつる高屏を新〳〵くちるなるなる日次の中
りていと珍〳〵赤麻の清を極深山の中ふ居天の平作と
別ふ一世界のとく仙境といへ〳〵清を入る流日面
か新久茂ひと山赤麻川麓と二丁のこなる武川の傍に山家
ものとと絶塵ふく清ふ細〳〵ひまふ相良屋あと事絶

[illegible]の時と申し奉り候中の西くと申
[illegible]の滝と申候所の滝
中代人くとも毒を取候なと申し奉り候て
にあつまりうるなくまた時も取の縄と解やいる俵より取
の中の人にあとかくるなり舟のつゝ笠とつゞくくあ
と謂く申まぎれて毒の流の中なる所千町ばかり迄流
るく初めるくもやうの人取と見るこの事こ
ゞ稀なの時とまたくなる紀藏に法きわ見れに流る
源をきうもて取るこもちうもうにあとそ紀て
取を敷す傳記のあるもてよ見ゆ[illegible]ひらす初めとなく

迷ふくよりもとと又文ふ初尽もくあるもてう

龍門の滝

滝を結ぶ所の名山の滝天竺月一ま決ふ日光山の裏[illegible]
とゝの所名のうさ八日本のこなり千度あくと見紀代
滝八なのきよのなりまるふ中ふ九ふ玉の白水の滝の
あるてうと天なるう滝八生くくなり形首日光の二つのおきを
所いまるくはをまを海するるあくふ千呂湯ふ加治木の水り
詩つの滝とゝ結ふあるう昔唐人加治木の湊よ入紀もし決ふ
山滝と奪ーて為くふ山和に拾ひ唐玉の詩つの龍とゝんるふ紀
やうとくふ山滝をと詩つの滝ゝ名付るとを幅ふ六百ゝ二

十万年ととへんてうしがきたのくにのぐこるの中ゆふ幅
十間あるとぞ長さハ五百里ばかりなるくにもてとぶふ
見るのけ滝ゆてく粉てはれて雪き所うはくとうきことこの
ハるるこの声なりしゆ滝の中より虹数條紅綿と滝ま
るがごとく流ふ見るなり滝毒龍ひ中ふたなる亀ま大
盆位なるよ甲のまてうゆ中なるけ地のくハ無数なる
事ゆうとぞ中漫接のゆるゆるとる滝あくハ生ものを中一とすす
ぶまてうと接ふけ迫毛なるとハこれをたてうくなるくなむ
へしまたこの又肥後国求麻の山中まてうたの滝とゆるをそん
ゆう滝つの滝ようハ少なるとゆるけ滝なる滝のこよ

り十丁程の村本を流れ落す滝壺を深くして三丈程の
岩逆様に滝に入るとなり
くして中りくに再び深きとなりよさまに滝壺の深さ何
十丁とも知れざるとうとうとして渦ふきとなりくて西
の海なりけり

山臺

九州極西南に深山に俗に山臺とて名のあり薩州にて
ことなりしに彼の山の寺とて山臺にて
形大なる猿のごとくにて常に人のごとくにて常に
のごとくにして寺にて食物を盗みとる

御山とて深き谷にて猿多く住人なしと山深く入りて
本の大なるを切りおろす時に岩猿（谷をとりまわす
中にうごくなめる時に山臺にて猿あ
りてよく谷筆をとりて極人の生きけるなる人と同じく大
と運ぶ時に必ずうしろの方にちく人より先あり
場ふめり猿あり人を見猿法人（ばけ者）あり先使役
りて後に飯をあたへ先にあり飯をあたへ
は飯を食し終りて逆さる者にハ人の害をなす事
とし武方より見を打ち殺すとなり人ハ初め猿おそれ

なりし鯨骨し或ハ大鳥に似て或ハ走獣或ハ火炎に入たるごと種
く此賢害起りて初積陰業とあるゆへし此由へん人皆
大ふれとまじうやゆいてもそ事なし此ことの品物の適
懐にあることく纔出ふぎりと銭ほど有ぐれ名ゑよう妻多く出
ると以ゑふ山ふありて山様とい暮を川ふ往ミ川吉郎
といふあと或人の語り紀錄ハ川吉郎と同前ゑして示よ
り時ふよりて名の替はることあるか

玳瑁

瑇瑁ハ南蛮の海中に生ずる甲なり阿蘭陀人持渡
り婦人の髪の飾りに櫛かうがいとなして玉ふ事

金玉ハ積もりて日本ふとし式玳瑁あり肥前唐津の海中にあり
薩州の南海大隅出雲水の海中ふとし是ありて至極繊ハ瑤り
其大餘ふしてそれよりたなることのあし故に其甲意外に厚く
櫛ふ作りて只薄きとの飾りに用ゆ又珊瑚珠と雖野
の海中よりおこれ皆と高ふして綾めなとの玉ふ近ごろ遣う
ぐつし其色赤く又上品の鼈甲よりは赤き珠瑤ふし出品
玉とくわしく野暮なる八あるまじきのことを人ゆへは種々
と近年薩摩にて製す其国にて海より来りのよう
遠く積もり経て七備にて生ずる寿命小八重毎より来る
との積りありとて京師などへ八重の庵毛より来るは甚宜なり

れ筆とそれに漬て書とし先造りとつよくまの細工面をふ
如くに彫刻して作るふ海を代相ようハまてるくこの相大
そうハ指もて七年久登してそ人の工を昭くふ奇妙絶もて

一巡寺

肥後の玉八つ代の球麻川とさうの尾る事八里ありて祇の
流の岩とりのあり玉あり其の奇なる形ハ出来戸ふ程ふ
事ハ来ようはの人しるあやえ方大変絶なる出逢て祇の
の流ふ如る結の流の結を緒ふ鞦韆ニ子大程の書しくを
寓に如る寓ハ球麻川の小側あて山ニ入る事ハ里ありを
乃くを個く苦れ流ハ乃を紡ど出ニ乃の法ひやかあて

仍先ふ所ありそけなり中く谷深く入極にいるとくを加ど
出ニ乃ハにいとり分れ打ふ乃ようを繊に生とハは
柳子れにの流くしるとく南四ありく高さとに十四丈
乃ようりとやそびん上ようを石壁乳れ高ありて種のを
く頭をハのをくるが流くハの乃りたる中くにはりを奥
に如るやまく遠ふるくりもて甚石壁乳の乃に鳥をりて
乃ありく貴中ニ高く腹白くを尾みどりく金仏遊ふ仏ように
高ふ一里なり世界の中に兵式岩戸の中をりに生ずるを
なりとりの奥をりにはいるまて数百間むくりの流を
くをぐくと乃りるそれど高ふ手ていのを形をを

かくれ家ありて此岩戸の外の清つりし元なりといひ傳ふ
へて昔よりありし此所は錢(?)の時は此邊に村落多くの山家記(?)
りて大風洪水疫癘の類大変ありて此所民のなげきいふを
かりなし由人に此村の人語りて悉く盡くしを數ふに緣(?)
邦に日本国中に一見の名あるを多くあつめて座敷を作ると又
見んことし其代の名をといひつべし扨此岩戸の中へ入るなり武
三千段ありといふ奥(?)そ此あたりまで三十間(?)もつれ
明し此所より(?)の所より左へ曲り口の廣さ三間程もあり
此穴あり此中をくゞり北(?)事にのぼりて心持よく川先
岩角に足をかけて此中をぬけて向の人と十間もありとや

またふんでたる岸より前の方へくゞり込て切岸よりこともなく(?)
し其深さ凡八(?)のはかりとも知らずむしる方といふ角(?)に高
頭(?)やうに深くありて其所極めてしらず粗(?)ちよめ座(?)の高
きが如くに遠く鬼(?)に積のごとくきらめくことの大なり岩(?)水に足
深さ凡二三千尺ともふべきや周りは近く足(?)むかし大変ハ
見えず先くしも見よごへ退て大様に足をとめて此所は靈
泉(?)あるを時によりて清(?)くして此所ハ深さ手むしろより知る
ものなし水までと三千尋の縄をおろして知るとも知ることなく
此岩戸の中に神の御座所なり誠に奇怪の所に筆の及
ぶ所にあらず予此に移り年此類の奇境絶妙眼に好まず

[illegible]ことなるまじ　しかるに[illegible]
[illegible]すきかはよあるハいとあるとくて[illegible]人とあるまじ[illegible]
[illegible]の[illegible]山遠解の[illegible]なるまハ[illegible]人[illegible]
[illegible]とあるハセ[illegible]今又[illegible]ふ[illegible]
人必山[illegible]
山一[illegible]時[illegible]
[illegible]時あ[illegible]
びしく[illegible]山[illegible]泉と[illegible]
[illegible]欲時[illegible]万[illegible]と[illegible]長生不老なるとかきとき[illegible]
[illegible]

麝香嵐

薩摩藩城下に麝香嵐とゝ[illegible]
と麝の下るごとに[illegible]嵐[illegible]長囊[illegible]
やゝ[illegible]匂ひに似たり　[illegible]麝香嵐とゝ[illegible]
り茶[illegible]ぶり[illegible]常の嵐より高し　[illegible]
るごとに山嵐一[illegible]
[illegible]山嵐又[illegible]
[illegible]
[illegible]
山嵐とゝ[illegible]琉球の嵐[illegible]
[illegible]琉球の[illegible]
[illegible]

おなじく三蔵法師と成ることを願ひ
来りて町家に宿をとるべきあり
のゆゑをもて生ずべき業障なり一切不師菩提人を式蔵と
て焼き合せ殺すべき殺造る法あるといへども仏法祕法あらば
魔障をとどめ人を救ひ極の法をもひある業なり

毒夫

予法をもとめ諸国に山中の人を長命なり法道の人を
延命なり高野の人を癒疔のとき採薬をもて稼なり長
崎の人を高くして高野の三教信又双信ともいへしも由
来諸者の人に合給のゆゑあり山中の人を無用なるべ

常に草木根の苔の類食すべし年始節句ならず祭り
日といへども客来と酒肴を設け精進乾物のみ用ひ
深夜に登りて耕作より身を労し終日麦飯に餐とも
ぐ無食のごとく身を働くべし不長命なり法道の
人を無用に飽満く飯の四つ四と魚類食べ肥の安人なり
て法道の運漕よろしきに能ずまた不自由なる人に多く
況やとは麦飯をもて食せびまた不二飯の働の苦労ハ
なく肥満して健康の利益なるべハ自
法と身と安くしてくらす反病身にして短命
なり経又山中の人の法乗を自由にして満足貧乏なるべ

美女粧黛と云く淫毒病の憂となり酒迄入れば
と云ふ玉の通路のみまでハ緩に華燭あく粧女あらさるあと
云く人ごとに淫毒病うけ呂又堪風に淫毒病あく関年
ようり毒病作り云ひ知る病苦し賢徒はくしいかなる
壮実の生まと付といへとも緩令病身なるさる事あく
毛山中と酒迄の毒犬のごとく根本なり長寿ハ天下唯一
に魚肉生くさんかく牡蠣の新ようとも亦なるる極なるハ
人皆白く魚肉に逢ひて飽満又庚人のいんちようくとん
習ひ何のかくさくと酒あげにな〜唐味あ〜そ食すさ
上金銀の通利拾ふに宮殿人活歓楽あ〜そ世と願るさ

而小日夜只欲食のみと楽とし〜そ身と働き事血気ばんぐ〜
す事あ〜毛皆種物は新の美き根本なり東洋人皆品紫
を生ふ小津と名身と働き酒を飲ふ人肉格物
ホ〜て星霜の者を拾めう〜て右小化ホに逢ひ常に兼食
癌疾の新ちくなきの品ちんなり絶ちと繁花の地ひ人温
毒の憂を日〜に多く毒縁ホ〜うつく病ある者食に似く
りと〜深毒とのくせ代京の地と長寿と願へ〜ふ〜あ〜

神楽

余ら友人塩谷金におし先生ある日ハ歌中村小拍ひ
に生化ま婦寅とく鑑小百歳に及ひ性質律者にくあに

鶴寿栗和尚てくんに賞せらるる老人あり武州塩谷の郡
赤沢村の百姓なり其年八反四畝なるを
いつの年の頃のなりしかよく覚えず今より四十年前まで
此高弐石一斗に公領にてありしが八年ほどに貢の米弐拾
地より出よ江戸に積るなりしと聞くに船小菅にて渡
海せり此所の赤江川の渡により舟を出し寅卯の方に向ひ
針とたくるよし紀伊殿紀州の方とたがへて渡
海ハ海路にて三百里と云て大坂より日数十
五日あり江戸に入るなり匂海左の方ハ広く人しとなく
是ハ広針なりとなるなり成年いつものとく渡

海して駿州江尻の湊に着せり此所の岬うちとなり
あうふ小湊と云なり其岬を踏絶の岬と
云て此所より波高ふ揺り居生きうしのごとく
人くく船より海ふとうり居るなり此海人信より
つく只茅茸くくうまき中に小き祠ありをさ日よみ
みくとやまりけん拝殿に古歌或ハ狂歌のくさ
殿に掛くあるなり此歌ハ人の云ふ山氏殿の
舟遊びにいと近屋せり此所に幸の古歌あり
して拝んみを祈とて面白しなり海ひてんとくんして行と
て笛とし薬灌の盃と云く細掛とし紙とあるて烏帽子

と、浴衣を拭そ、く、小粉衣のめでたすきれ学びとそ、
彼を敷を折ふくるるまうしる田舎をみと、個ふそうとく大好
頭にうこひもの、維ろんんくきあるう後へ秘輝ろ手なり、
一そ、のまの、そとうしてくおほそと三郎ふきにちなれ物う
ろるにそ音信ぬまくとぬやしーにん而のたやみとがぬ、
き者とを小毋に掉さ、来して大よ学う云やん海ふ知ら
ずを武鳴ふ昔ふう嘉ぬき神のあり、くを知ふ漁人の船
さんと寄せびまして一茅ふくとのをあれまふ大毋紫
りをうてを在を卿まぐのの大雄海ふ及ぶりなうとれまんふ
而のんとのんどとを見須のなうれのひをひ海ふ嘉ふまの

海ふ知を何を の者ふをうやかくるを礼と仕ぶ、て神ふあ
、社風を極、めをうやと学う罵うれば告く肝とつぶ
、を報ののとん俗ぜひ船がうれ五屋のあるうを敵ひん
付、ようふと異に高ぜ、まん数をまふとのうをせりて
て神のをの、そとう紙をく告、弘とのく、我をふと知とを
、、逃めう粒を毛を、離して、沖うを、、居ふうをふ
てをとのをく風を毛を海がを敵とを和て敵く居をう毛を
ふ知に毛うの、人をう、和とんを粒を命ふと我漕逃も
出を毛をのハ、いのをうを事、とをひ出、て答をふ来をる
ゆをんと告く毛を毛て毛を、び毛屋にすくを居をうが

[illegible]ようとゝ[illegible]と年紀せがこてもぐ長人てきて人[illegible]
こうたいさの[illegible]人ととの[illegible]
りて、無[illegible]ばるさ[illegible]せきのか[illegible]
びいんぐんに[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
に[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
く[illegible]

あ[illegible]
の[illegible]
今[illegible]
和の[illegible]
ハぜひ[illegible]
く[illegible]
ひ[illegible]
[illegible]
りま[illegible]
海と[illegible]

の四方よりかこむる神風のいちもんあらし
うちもてとなりうちもてゝ波もうち

いろは

我家埋有四角の玉の作四角に成やうに成やうに
ようつくもの作れ〳〵とのるもうちもてゝ作せ
し命令のとおりこちらあるべしあるべしあのあり
そく居るうく山賊人よ新しくこれ人今天更り人
ハ拍子〳〵ちもつてうこと神〳〵悔とこの今六十二天中とたび
ひぬもど家名〳〵新名〳〵の物ちつきのとなる中我
対のいろ子人なるもこ拍教へきもゝとうく猪文を

きあうれまくのく人稀なあれりよあすよやこれ
いくつくふこ発おもこ人のくてたくきるみとあ子人
ひくハ山賊人の拍子書ものるものいもの我悔と
とれ年中て陽うせるとひとうるうこうの我猪のあ
ろ人かなそれぐとよう言ひあるずりんどあ
流のる習ものそ発御の事ハ中こ第〳〵すべーとひてい
ろは四十八字と書ものの中に中こくのくあ
るぐるく巻ハむろーのの我思ものの名和〳〵さるる
う悔たこいまぐ業れそあーるとひつのハりのぐもあふ
ちあうひくハ中こ雅殷津津貴ひこ発中こく陽こせうへ

しかる後は我もいろはよりおこりしことを思ひつゞくる事とぞ
しとはや我が蔵主が今にては天下皆小児が手習となりし
先にいろはとこそ教へ伝へ代あまねくいはずいろはと
いふものとなりあらひや鐵に源氏物語ませぬを難波津浅
香山と手習のはじめとせる事なるべしかゝる今なをいとむかし
く光なき玉はとも背きあきらかなる事を望むまなこなどとぞ
馴二子の奇特なるあらんやまことに悟のものにふけり
ぬ人ありて速とて一向に悦びける蔵主は海つゝの阿修羅なりけり
ふるを弄りて邊土田舎には蔵がくるあさましく背きへし
とき在俸さいろは出世しも誰にも教えてしかるべし

と無竝ひて興して鐵に向へる所にて延喜天暦の遠き道とも
といふべし鹿李楼蔵農業の風と云ひたる事なく玉潤丹丘と
和ならへいふも鈍くちもれいにも風流かともまた絵師かとあ
りし事なり

西遊記巻之三終